

セセリチョウの仲間では絶滅危惧種に選定されている希少種は、北海道特産種であるヒメチャマダラセセリ、北海道、本州（東北・関東・中部）、四国に分布し近畿と九州とには生息しないチャマダラセセリ、本州と対馬にしか生息しないホシチャバネセセリ、本州の特産種であるアカセセリ、そして石垣島と西表島の特産種であるアサヒナキマダラセセリの5種がある。

筆者の郷里である高知市では、円行寺という自宅から自転車で1時間以上を要して通えるチョウの宝庫があって、その畑地周辺で、少なくとも1956-1962年にはチャマダラセセリを春型と夏型の、年に二度は観察することができた。残念ながら、当時写真撮影記録をとるなどという習慣はなく、他のセセリチョウ科のチョウと同様に本属を標本とすることにあまり熱心ではなくて採集の対象ではなかった。ただ、中学校時代に始めた「高知市に生息するチョウの生活史研究」というテーマでの自然観察記録だけはまめにノートしていて、上記春型、夏型の二つの発生的高峰があることはその記録から判断できる。

高知県外での生活が主となって、たまに帰省した2000年の8月、数少ないチョウの宝庫であったこの円行寺一帯に人工的な開発の手が入り、ダンプカーが土煙を巻き上げながら行き交う光景が展開していて激しくショックを受けたものだ。希少種であったチャマダラセセリをはじめ、多くのチョウの発生地が破壊しつくされてしまったのだ。低地でオオムラサキと出会うことができた唯一の場所でもあった。チャマダラセセリが完全に絶滅したと考えられる今になって、せめて標本を残しておくべきだったと悔やんでいる。